法人設立50周年を祝して

社会福祉法人　リ ラ 福祉会
理 事 長　　野本　ヨシ子

一般財団法人川崎市保育会の設立50周年を心からお祝い申し上げます。
前身である川崎市私立保育園連盟は、園長先生の集まりの場で運営に関する困りごとを語り合うことからスタートし、知恵を出し合いながら前進をしつつ、昭和44年に財団法人のプロセスを経て、一般財団法人として現在に至ります。50周年を祝う会が令和元年6月29日に盛会に挙行されたことは自分の人生と重ね合わせて大いなる幸せを感じる日となりました。
私が北海道から保母として川崎市中原区にある私立保育園に就職したのは昭和39年7月。産休明けからお子様をお預かりする園で開園したばかりでした。青春の中に保育が常にある毎日で、学びたい、知りたい事が山積みでした。児童福祉のルーツは慈善事業からの出発であることから愛に燃えていた時期でした。
やがて川崎市保育会は経営する園長会の集合体だけではなく、職員とも語り合い保育事業を前進させる集合体として主任会へ働きかけ、保育内容の充実を図るために、職員の研修が始まりました。最初は任意団体として加盟園の保母（当時は保母という呼び方でした）、栄養士と調理師を含めた職員集団でしたが、昭和53年7月に川崎市保育会保母会として園長会が認め、会員は会費を払って、当時、職務上で疑問を感じていた様々な分野の専門家を呼び吸収していきました。常に学べる場を確保した事が次々と拡がり、職員は知識の蓄積と共有を元に保育できるようになりました。また施設・法人単独では何かと難しい就職も集団で実施することにより、私立保育園における採用の均一化と効率化が計られて養成校へもその存在を示したのです。園児・保護者と現場で向き合う職員が、希望の職場と出会える制度、継続的に研修を受けられる育成環境、そして川崎市で共に頑張れる仲間を得られる場所を確立する為に様々な方々の努力のもと50周年のプロセスが出来上がったのです。
そんな過程で育てられた一介の保育士としての私がプロパーから園長となり、社会福祉法人リラ福祉会を設立し、理事長として3園の運営をしている今日があるのは川崎市保育会のお陰と心から感謝しております。
今後の川崎市保育会が原点を大切にしながら、50周年も通過点となることを願って止みません。